



麻布幼稚園だより 10月号

平成30年9月28日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

「親子運動会が近付いてきました！」

園長 大島 美知代

2学期もあっという間に10月になり、そろそろ秋風も吹いてだいぶ涼しくなってきました。園庭はなくても、プレイルームや小学校校庭・体育館を活用し、元気に運動遊びに取り組んでいます。10月20日(土)の「親子運動会」では元気に活動する姿が見せられるといいと考えています。

元気な体づくりは、家庭と園での食事と良い睡眠が大きく関係します。保護者は、我が子が健康に生活できるよう、「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を心掛けていることと思います。

今幼稚園では、学年によって、また一人一人の経験によって、食べ方が違います。

箸の持ち方はこれからの食生活の基礎です。

幼児期は一生を幸せに暮らすための基礎を培う大切な時期です。

たかが『箸の持ち方』ではありません。勉強もよくできるでしょう。ご飯もおいしく食べられることでしょう。

幼稚園でも昼食時には指導をしています。体験給食でも指導をしています。食べることは健康な体づくり、生きることに繋がりますから。

「みほとあすは育ちを学びをのびる〜家庭でも大切にしたい〜」

2 箸の持ち方 箸が上手に使えるようになるから〜

「うちの子は箸がうまく使えなくて。」とお悩みの方も多いことでしょう。

また、他人の箸の持ち方は、大人でも気になるものです。箸の持ち方は手の機能の発達と関連性があります。

スプーンを①②のような持ち方をしている段階は、まだ指先がうまく使えず、箸の持ち方を教えても正しく持つことはできません。この時期には、遊びの中で手先を使う経験をたくさんしておくことが大切です。

スプーンや鉛筆の使い方を目安に、③の段階になったら正しい持ち方を教え始めてみるとよいでしょう。ただし、まだ集中力が続かないため、強制は禁物です。スプーンやフォークと併用しながら部分的に箸を使うのがよいでしょう。

④の動的三指握りができるようになれば、正しい持ち方を教えていく必要があります。箸が使えたという喜びが味わえるように、つかみやすい食材や大きさを工夫して、成功体験を増やしていきましょう。

保護者も焦らず、根気よく教えていく必要があります。もちろん、保護者自身が正しい持ち方を意識することも大切です。お子さんの手の機能がどのような段階なのか、成長を把握し、食べこぼしが少なくなったら次の段階の持ち方を試していくとよいですね。

また、箸と鉛筆の持ち方は共通すると言われています。幼児期に正しい箸の持ち方を身に付けておくと、今後、文字を書くための鉛筆の持ち方にもスムーズに移行できるということです。美しい持ち方を身に付けさせたいものですね。

	スプーン	箸	鉛筆
① 手掌内握り 手掌外握り (1~1.5歳)			
② 手掌内握り (2~3歳)			
③ 静的三指握り (3.5~4歳)			
④ 動的三指握り (4.5~6歳)			

「発達が気になる子への生活動作の教え方」より